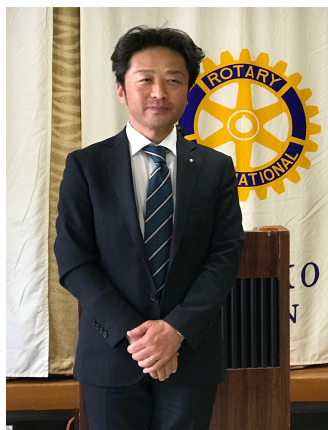


鈴蘭水仙

☆幹事報告

- ・今月のロータリーレートは1ドル=112円です。
- ・長野日報の広告回覧します。
- ・コーディネーターニュース回覧します。
- ・財団ニュース回覧します。
- ・ハイライトよねやま回覧します
- ・5月20日諏訪湖浄化推進連絡協議会総会が下諏訪文化センターであります。
- 多くの方の参加をお願いします。
- ・5月11日諏訪Gポリオ撲滅チャリティーゴルフがあります。



今月のお誕生日の方

第1596回例会報告

令和1年5月9日(木) 晴れ

会長告知

会長 北原 厚子

多様性の中でまもるべきもの

1596回 5月9日

本日は、次年度会長・幹事さんの基本方針の発表例会でございます。

次年度会長・幹事さんには不安と希望の複雑な心中ではないかとお察し申し上げます。これから歩む人生においては、短い一年間ですが充実した実り多い時間となりますようお願いしております。



さて、新元号が「令和」と改まり、国歌斉唱も新鮮な気持ちで歌いました。」令和元年、最初の例会でございます。私はこの場に立ち会えたことを幸せに思います。

ところで、昨年、諏訪湖ロータリークラブの会長エレクトとしてこの場に立った時のことを思い出しました。そして、今、新たな気持ちで、あの頃勉強していた本を読み返していると、元RI会長の言葉の中に「ロータリーはクラブが主体」という主張と、「決議23-34」の奉仕の自主性を根拠に、クラブの特色を出さなければ将来はない」というような記事がありました。この「決議23-34」は、かつて平山会員の卓話であったり、三村会員の卓話などで再三耳にしましたが、なかなか自分のものとして理解するには難しいものがありました。そこでもう一度「決議23-34」を読み返してみることにしました。決議23-34の第1条には、ロータリーの奉仕理念が説かれていました。すなわちロータリーには二つの理念があり、その一つは「最もよく奉仕する者、最も多く報われる」「He profits most who serves best」のモットーで表現される職業奉仕の理念であり、もう一つは、他人のことを思い遣り、他人のために尽くすという「超私の奉仕」「Service above self」のモットーで表現される人道的奉仕理念だということ。また、2016年の規定審議会での規定改訂で、クラブの多様性が現実となってきたことは痛感しております。クラブの主体性はこれからますます進化するものと思います。会員増強の路線の中では、入会を希望する人々がクラブを選ぶ時代になるのではないのでしょうか。そこで、おのおののクラブが生き残る作戦や戦略を持たねばなりません。さて、そうなるとクラブは何が必要でしょうか。ロータリーのアイデンティティーを守ることに尽きると考えます。「職業奉仕、職業分類の原則を失えば、このロータリーという団体は数ある慈善奉仕の団体の中に埋没する」と語った元RI会長の言葉を今一度肝に銘じ、このことを守りながらクラブは自主性を享受しなければならないと強く感じました。

出席報告	ニコニコBOX		今週のことば	
会員数	38人	4名	本日諏訪大社のおんばしら仮仮見立てが実施されました。3年先の御柱祭に血が騒ぐ思いです。 御子柴 文夫会員	
出席対象	38人	累計		12,000円
出席者数	27人	目標額		506,000円
出席率	71.0%	達成率		60万円
前回修正	76.3%			84.3%

## 会長・幹事 担当例会

次年度会長方針発表 西澤 賢二 会長エレクト



第35期 (2019-2020)

### 『会長指針』

会長エレクト 西澤賢二

2019-2020年度国際ロータリーのテーマは『ロータリーは世界をつなぐ』です。国際ロータリー会長マーク・ダニエル・マローニー氏は「ロータリーの奉仕を通じて人々が手を取り合い行動を起こすためのつながりを築いていきましょう」と述べています

しかしマローニー氏もおっしゃっているように実践することは安易な事ではありませんクラブメンバーとして一人のロータリアンとして、職業人として共通の意識を持ち、自らが率先して一つの歯車となり奉仕活動を行なうことに最善の努力をすることが必要だと考えます。

創立35周年に会長という大役を請け諏訪湖ロータリークラブが実践して来た「奉仕の理想」の歴史と伝統を改めて重く感じています。

2019-2020年度の、諏訪湖ロータリークラブ会長として、会員相互の親睦を深め、出席率アップに努め、会員一人ひとりの地域社会奉仕を率先し進めて行くことが願いです。

本年度当クラブの活動方針を「ひらめきと継続」とさせていただきます。

伝統とは、継続してきた旨を理解し守るものですが、同時に立ち止まってはいけないものでもあります。

継続するために各委員会活動の中でアイデアを出し合い議論し継続可能な奉仕活動を実現していきたいと考えます。

